

＜第104回キャンパス・サミット資料＞

平成28年12月20日

社会環境学部「ビオトープ」及び新宮町「人丸公園ビオトープ」活動報告

坂井宏光

1. ビオトープ活動～ 平成28年度の冬のビオトープ活動は、**12月3日(土) 9:30～12:00**に**第43回自然観察会**を開催しました。テーマは「冬の里山・ビオトープの自然観察と籠編み体験」活動で一般は7名、学生31名が参加しました。冬の装いに変化した里山・ビオトープの自然環境を五感で観察しながら、クズの蔦の採取をしました。その後、クズの籠編み体験を楽しみました。参加者は個性的な籠やクリスマスリースを製作しながら、楽しく交流しました。

今年も里山・ビオトープ活動を無事、終了しました。平成18年から今年度43回までの**延べ参加人数は、11年間で1,382名**になりました。参加者は、地域の自然環境に愛着を持ち、環境の保全や再生・創生を推進する人材として活躍が期待されます。来年も春、夏、秋、冬の4回の自然観察会を開催する予定です。今後も地域の環境活動拠点として、継続的に環境学習・環境教育を進めます。



冬の自然観察風景 (12月3日撮影) 籠編み体験 籠などの完成品の鑑賞

2. 新宮町「人丸公園ビオトープ」活動～ 12月14日に冬の**人丸公園ビオトープ**の景観を撮影しました(下の写真)。造成後、約9か月後のビオトープは、徐々に自然が再生している様子が観察できます。ビオトープのシンボルツリーとして中央のハンノキがしっかりと定着し、成長している姿が印象的です。

今後の活動として2017年2月頃、4月、6月、8月に、希少種のカスミサンショウウオやニホンアカガエルなどを含めた自然観察を継続的に行う予定です。



人丸公園ビオトープの全景 (12月14日撮影) V字型ビオトープ シンボルツリーのハンノキ